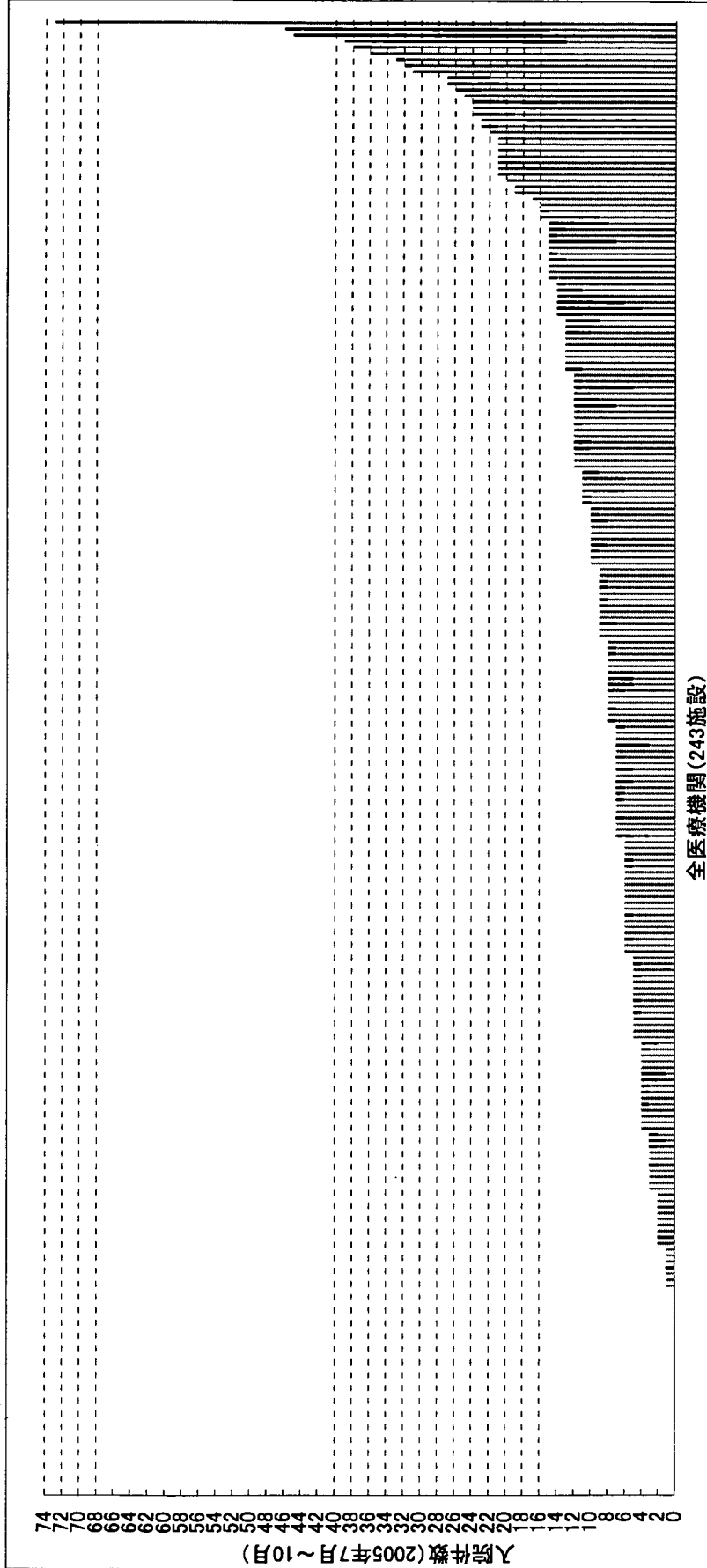


### 前立腺肥大症の入院件数

分類名	解析対象DPC番号の範囲	1102003	パーセンタイル												
			解析内容	入院件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
前立腺肥大症			入院件数	2,249	9	9	0	73	0	0	4	7	12	21	25
			手術なし	339	4	6	1	33	1	1	1	2	3	7	11
			手術あり	1,910	9	8	0	73	1	2	5	7	12	19	22



【図の説明】

■ : 手術あり[DPCコード:01,02,03,04]

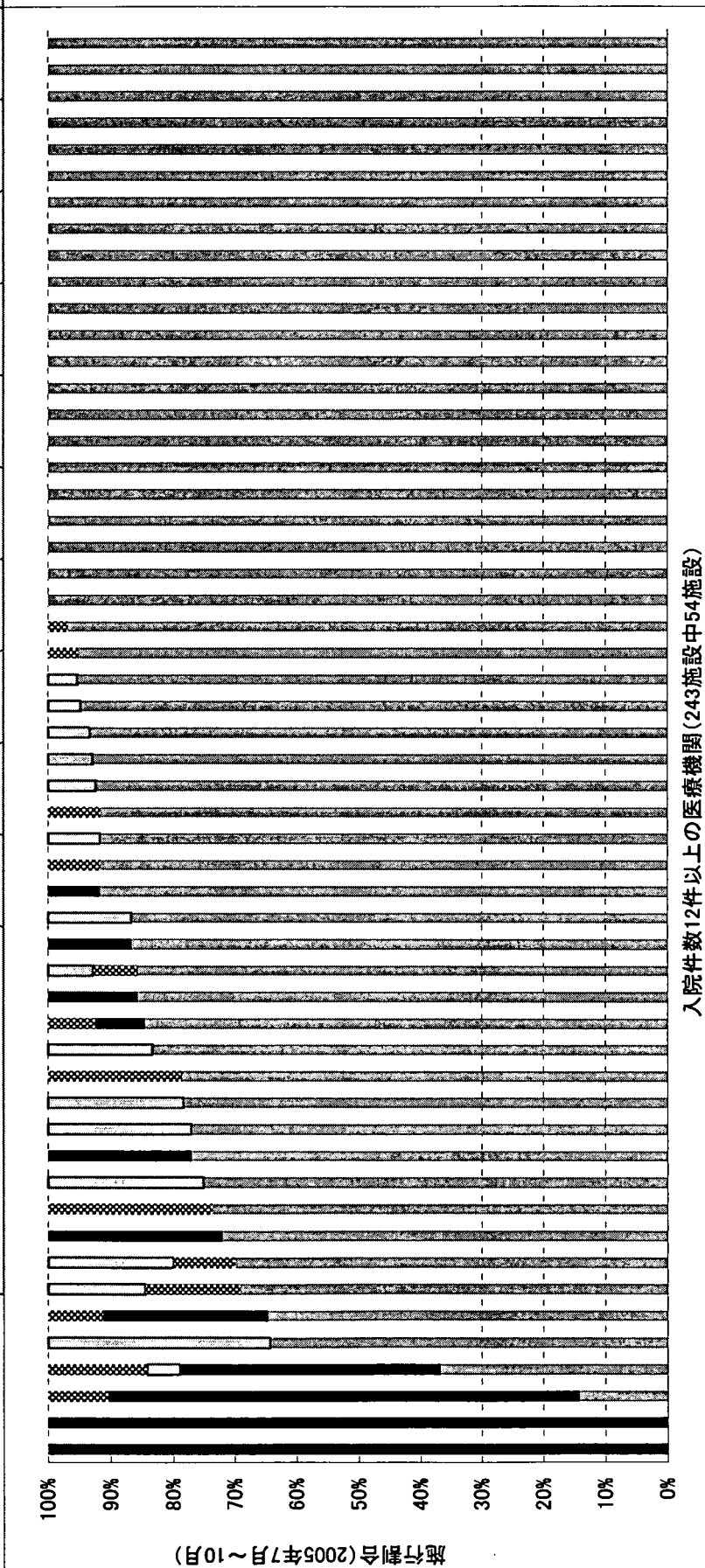
■ : 手術なし[DPCコード:99]

【コメント】

- ・膀胱腫瘍の入院件数は、MDC11の全件の4%を占めていた。
- ・全体の86%(209施設)において1件以上の入院が見られた。

### 前立腺肥大症に施行する手術の術式選択(N = 1,010)

分類名	解析対象DPC番号の範囲	パーセンタイル											
		1102003x02および1102003x04(1102003x01から1102003x97)に対して	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
前立腺肥大症	解析内容	手術件数に占める被膜下摘出術の割合	4%	8%	0%	36%	0%	0%	0%	0%	5%	16%	22%
	手術件数に占める内視鏡手術の割合	3%	6%	0%	26%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	9%	16%
	手術件数に占める経尿道的高温度治療の割合	0%	1%	0%	5%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	手術件数に占める経尿道的レーザーの割合	8%	22%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	25%	54%
	手術件数に占めるTURの割合	85%	24%	0%	100%	29%	68%	78%	93%	100%	100%	100%	100%



【図の説明】

件数上位25%(12件以上)の施設を解析対象とした。

■: 経尿道的レーザー+前立腺切除術[DPC手術コード:04かつKコード:K841-2]

▨: 尿道狭窄内視鏡手術[DPC手術コード:03]

▩: 経尿道的前立腺手術[DPC手術コード:02]

□: 経尿道的前立腺高温度治療[DPC手術コード:04かつKコード:K841-3]

■: 前立腺被膜下摘出手術[DPC手術コード:01]

【コメント】

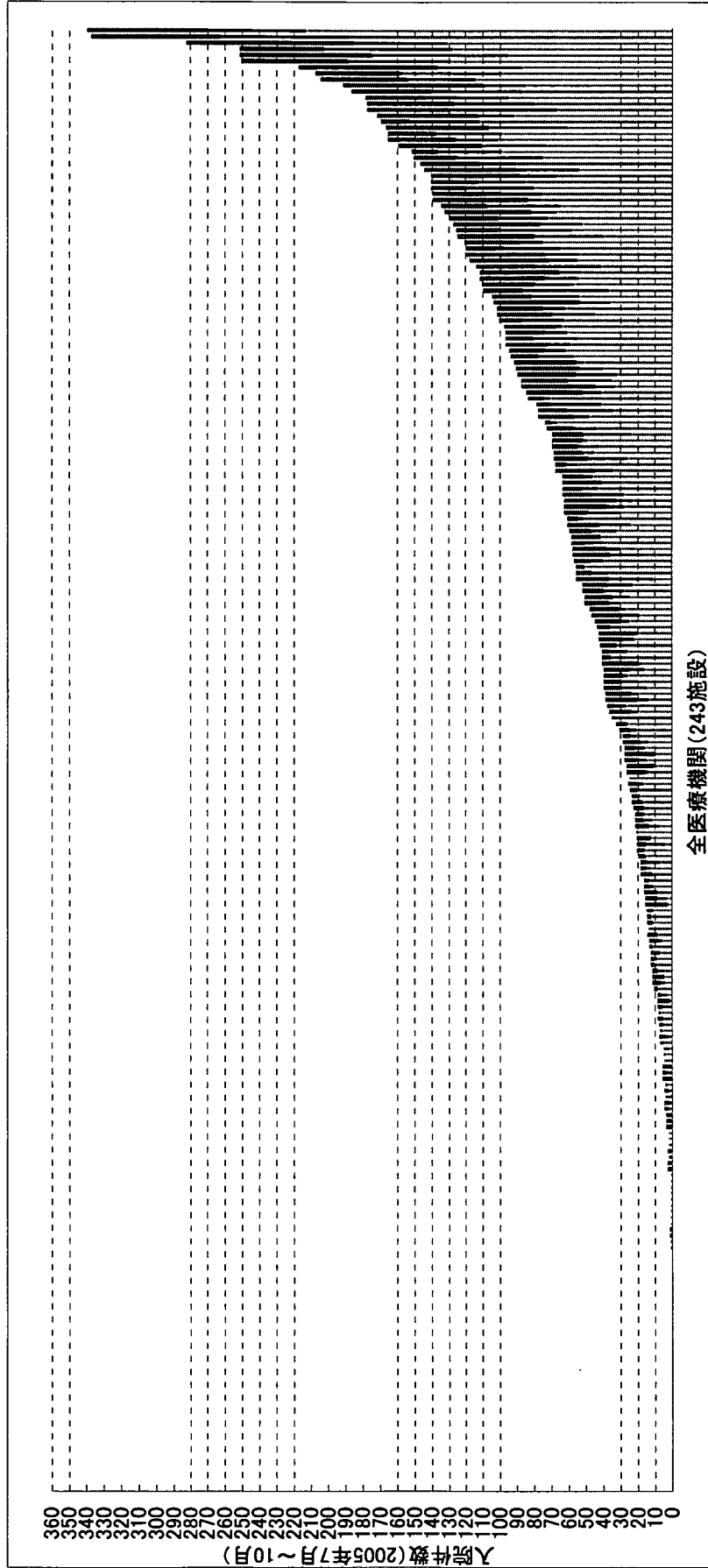
- ・経尿道的アプローチがほとんどを占め、なかでも経尿道的前立腺手術の割合が顕著に高かった。全件をレーザーで行う施設も多くみられた。
- ・経尿道的前立腺手術以外の術式では、かなりの施設差がみられた。

# MDC12

## 女性生殖器系疾患及び 産褥期疾患・異常妊娠

### 卵巣、子宮頸・体部の悪性腫瘍の部位別入院件数

解析対象DPC番号の範囲		パーセンタイル											
120010/ 120020													
分類名	解析内容	入院件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍、子宮頸・体部の悪性腫瘍	子宮体部癌件数	3,359	13.8	18.5	0	96	0	0	0	5	20	45	50
	子宮頸部癌件数	2,664	11.0	16.3	0	80	0	0	0	3	15	38	49
	卵巣癌件数	6,907	28.4	34.1	0	213	0	0	1	16	45	75	95



【図の説明】

全医療機関(243施設)

:卵巣癌件数[DPCコード:120010かつICD10コード:C56]  
 :子宮体部癌件数[DPCコード:120020かつICD10コード:C54]

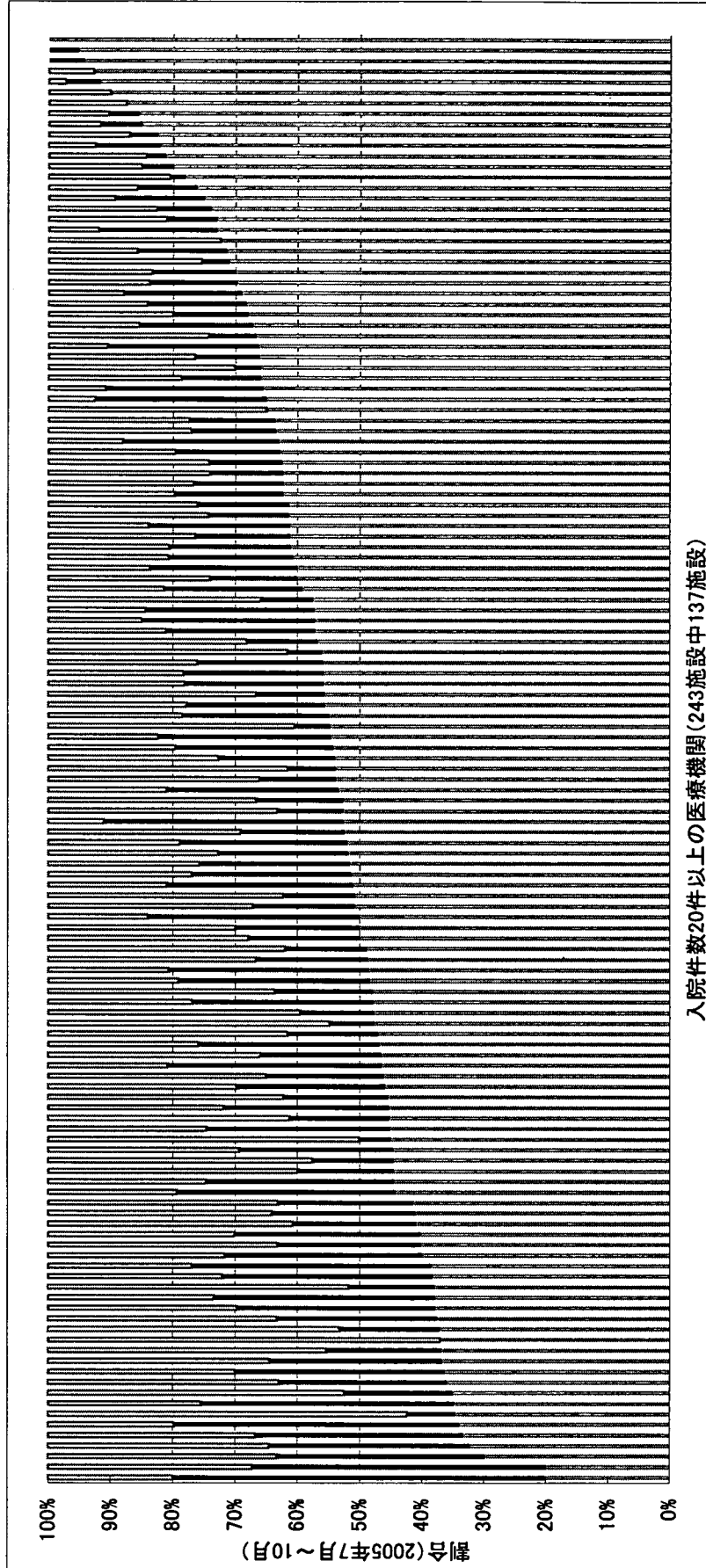
【コメント】

243施設中203施設(83%)において、卵巣癌(DPC:120010)におけるICDコード=C56)または子宮頸部・体部癌(DPC:120020)の症例が1例以上認められた。卵巣癌は全体の半数(53%)を占め、子宮体部癌は子宮頸部癌よりわずかながら多かった。

:子宮頸部癌件数[DPCコード:120020かつICD10コード:C53]

卵巣、子宮頸・体部の悪性腫瘍の部位別入院割合(N = 12,449)

解析対象DPC番号の範囲		パーセンタイル										
120010/ 120020												
分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍、子宮頸・体部の悪性腫瘍	子宮体部癌割合	25%	12%	0%	63%	8%	10%	19%	24%	34%	39%	45%
	子宮頸部癌割合	19%	11%	0%	60%	2%	5%	11%	18%	26%	33%	35%
	卵巣癌割合	56%	16%	20%	100%	35%	37%	45%	54%	65%	77%	86%



入院件数20件以上の医療機関(243施設中137施設)

【図の説明】

- : 卵巣癌件数[DPCコード:120010かつICD10コード:C56]
- : 子宮体部癌件数[DPCコード:120020かつICD10コード:C54]

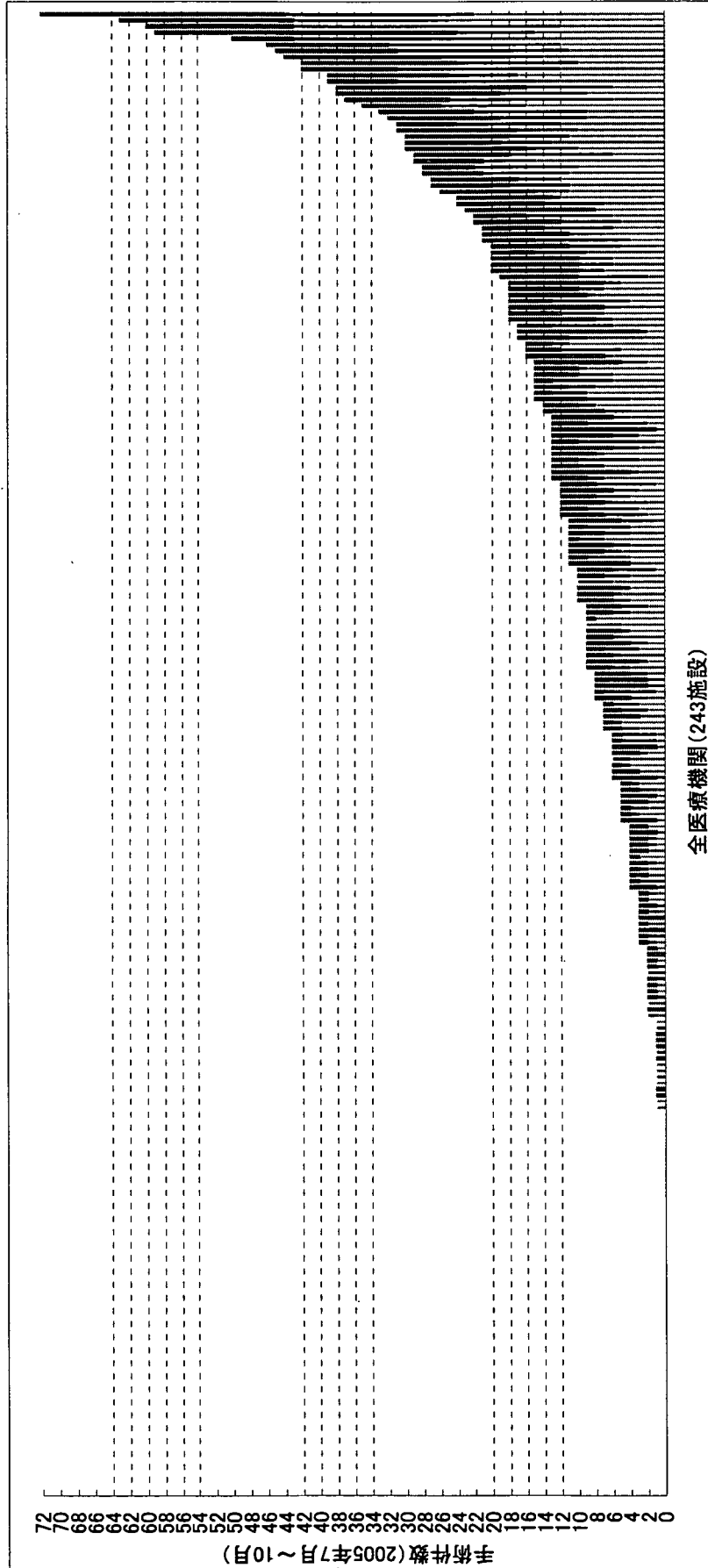
【コメント】

入院件数20例以上を有する137施設を解析対象とした。卵巣癌は全体の半数を占め(平均値:56%、中央値:54%)、また施行割合は中央値を中心にほぼ対称的に分布しているもの、大きなバラツキがみられた(最小値:20%、最大値:100%)。子宮体部癌は子宮頸部癌よりわずかながら割合が高かった。

■ : 子宮頸部癌件数[DPCコード:120020かつICD10コード:C53]

### 卵巣、子宮頸・体部の悪性腫瘍の手術施行件数

分類名	解析内容	パーセントाइル											
		手術件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
卵巣・子宮附属部の悪性腫瘍、子宮頸・体部の悪性腫瘍	子宮体部癌手術件数	977	4.0	5.2	0	35	0	0	0	2	6	11	14
	子宮頸部癌手術件数	726	3.0	4.8	0	31	0	0	1	4	9	12	12
	卵巣癌手術件数	842	3.5	4.4	0	25	0	0	2	5	10	12	12



【図の説明】

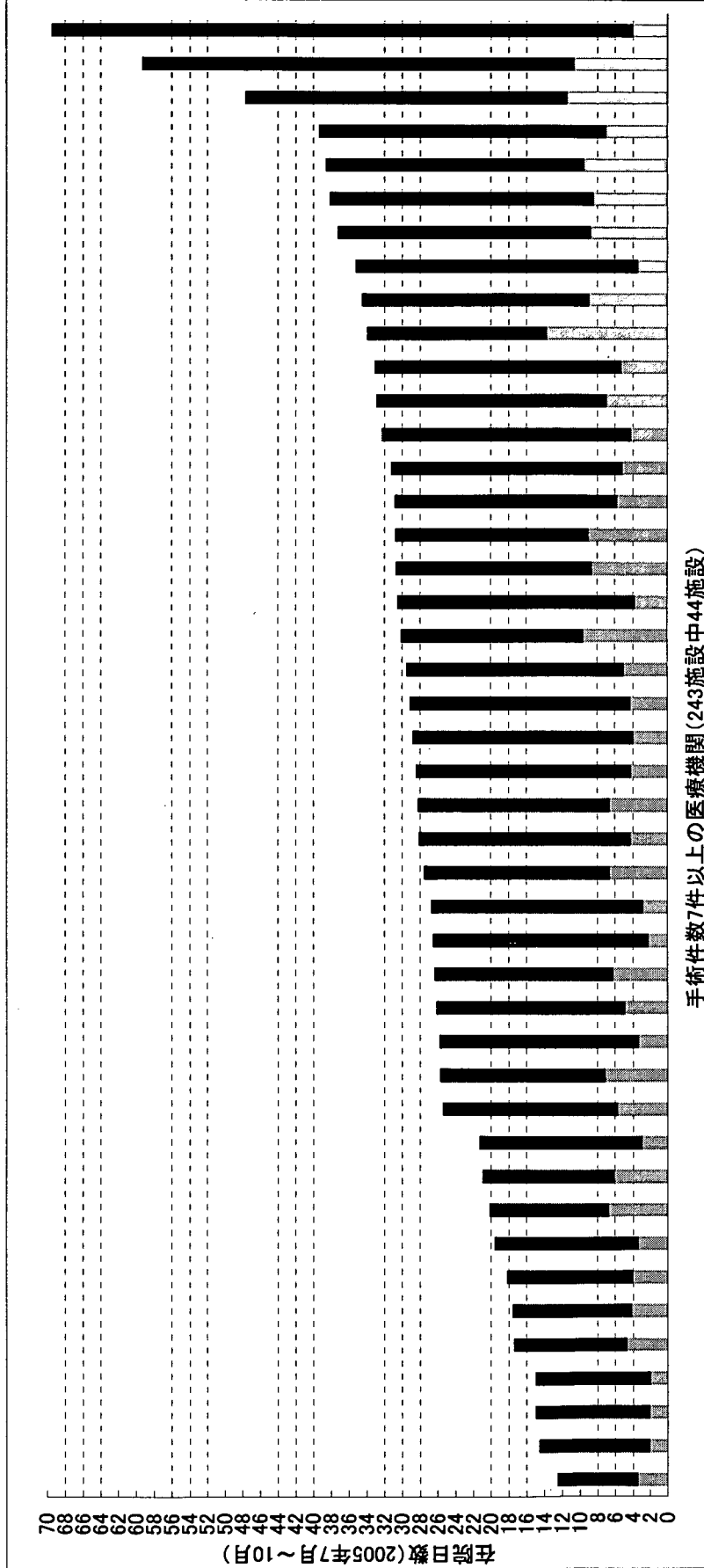
- : 卵巣癌手術件数 [DPCコード: 1200103x01または1200103x02かつICD10コード: C56]
- : 子宮頸部癌手術件数 [DPCコード: 1200203x01または1200203x02または1200203x03かつICD10コード: C53]
- : 子宮体部癌手術件数 [DPCコード: 1200203x01または1200203x02または1200203x03かつICD10コード: C54]

【コメント】

卵巣癌、子宮頸部・体部癌の手術症例が1件以上あった施設は、243施設中180施設(74%)であった。症例全体では卵巣癌が全体の半分を占めていたが、手術症例に限定すると三者ともほぼ同数であり、その分布もほぼ同様であった(平均値: 3~4件、標準偏差: 4.8前後)。

卵巣の悪性腫瘍手術症例における平均在院日数(N = 477)

解析対象DPC番号の範囲	1200103x01/ 1200103x02	パーセンタイル													
		平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95			
分類名	解析内容														
卵巣の悪性腫瘍	在院日数	29.4	10.8	12.6	69.5	15.0	17.5	24.4	28.7	33.0	38.5	46.5			
	術後在院日数	23.6	9.7	9.1	65.5	12.8	13.2	18.6	23.2	26.3	31.3	35.7			
	術前在院日数	5.7	2.7	1.9	13.7	2.0	2.8	3.9	5.1	7.0	9.4	10.5			



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、件数上位25% (7件以上)の施設を解析対象とした。

ICD-10:C56

■ : 術前在院日数

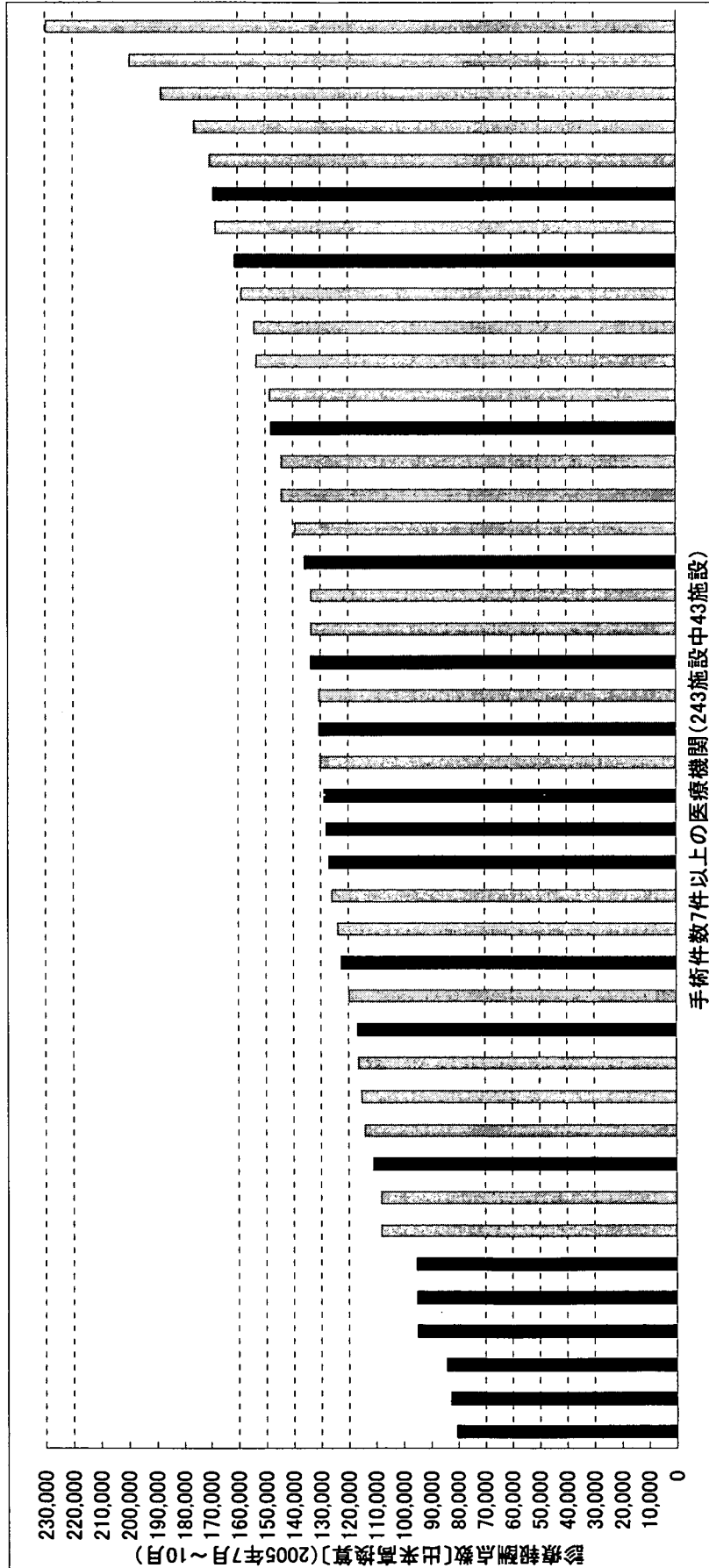
■ : 術後在院日数

【コメント】

外れ値として両側5%を除外し、件数で上位25%にあたる手術件数7件以上の44施設を解析対象とした。術前在院日数の中央値は5.1日で最小値1.9日、最大値13.7日と施設間で差がみられた。また、術後在院日数は最小値9.1日、最大値65.5日と7倍の差が生じていた。

卵巣の悪性腫瘍手術症例における一入院当たり診療報酬点数〔出来高換算〕平均値(N = 469)

分類名	解析内容	パーセントイル										
		平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
卵巣の悪性腫瘍	診療報酬点数〔出来高換算〕	134,612	31,225	80,686	229,761	85,641	95,332	116,097	130,682	151,140	170,126	187,301
	特定機能病院(25施設)〔出来高換算総点数〕	145,622	30,250	108,483	229,761	109,716	114,901	124,113	139,589	159,033	183,577	197,454
	その他の参加病院(18施設)〔出来高制度の総点数〕	119,321	26,290	80,686	169,091	82,605	84,101	95,341	124,940	132,959	152,068	162,431



【図の説明】

外れ値面側5%を除外し、件数上位25% (7件以上)の施設を解析対象とした。単位は診療報酬点数である。

■: 特定機能病院

■: その他の参加病院

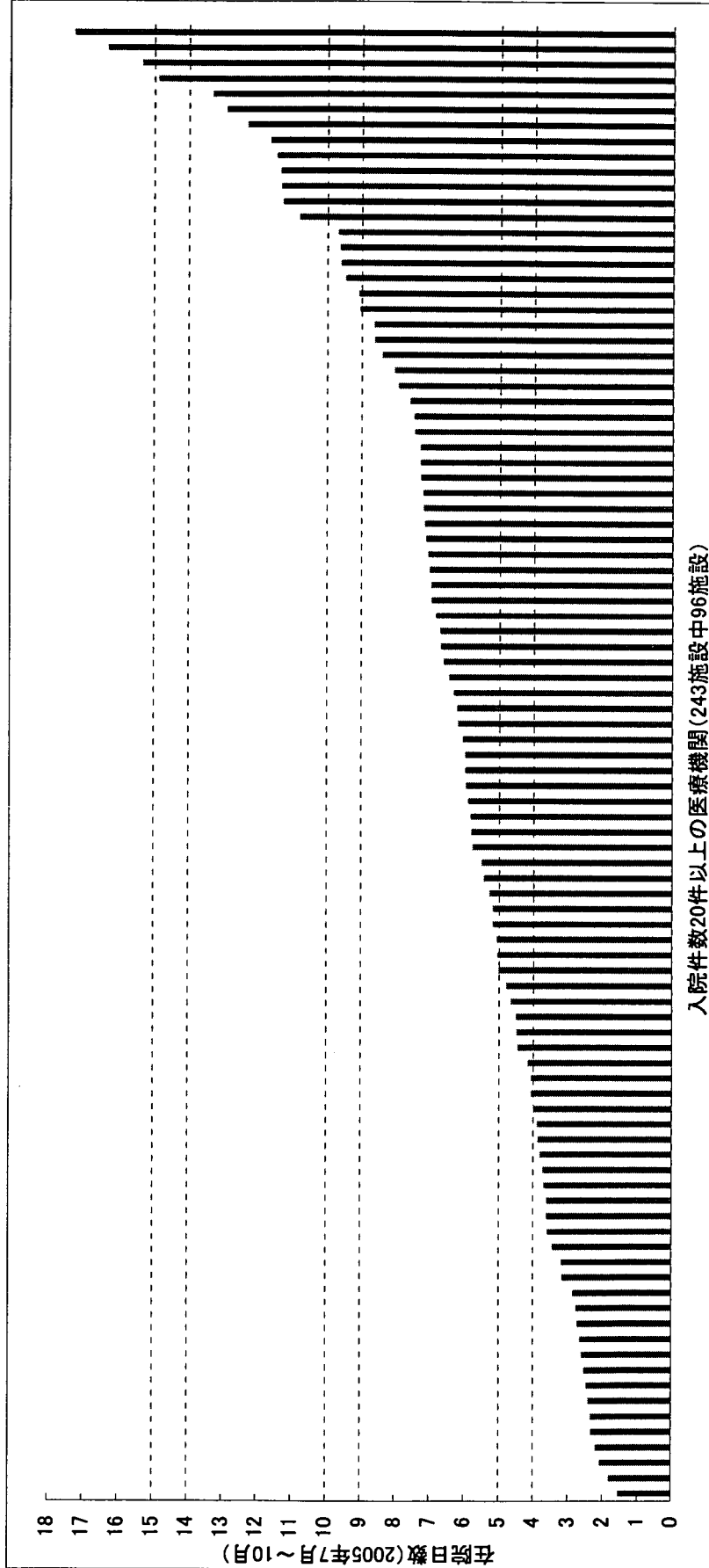
【コメント】

外れ値として両側5%を除外し、件数で上位25%にあたる手術件数7件以上の43施設を解析対象とした。全体的にみた1入院あたりの診療報酬点数〔出来高換算〕は約13.5万点であるが、特定機能病院の平均値はその他の参加病院よりもおよそ3万点高額であった。



卵巣の悪性腫瘍手術未症例における平均在院日数(N = 4,810)

解析対象DPC番号の範囲		パーセンタイル										
分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
卵巣の悪性腫瘍	在院日数	6.5	3.4	1.6	17.3	2.3	2.6	3.9	6.0	7.7	11.3	13.0



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、20件以上の施設を解析対象とした。

ICD-10: C56

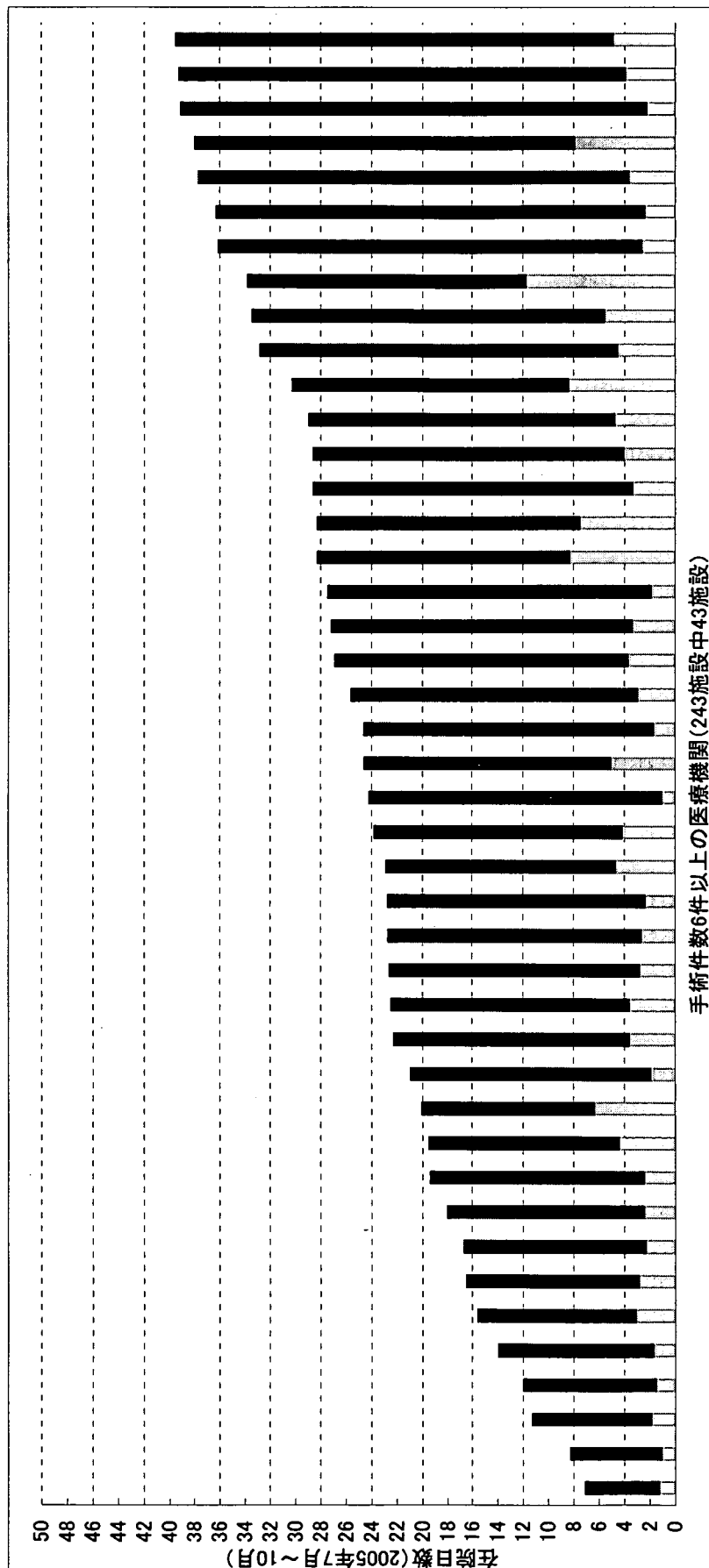
■: 在院日数

【コメント】

外れ値として両側5%を除外し、入院件数20件以上の96施設を解析対象とした。卵巣癌においては、手術のない症例が4ヶ月で4,810例あるが、在院日数は平均値6.5日、最小値1.6日、最大値17.3日で分布していた。

### 子宮頸部の悪性腫瘍手術症例における平均在院日数(N = 469)

分類名	解析対象DPC番号の範囲		パーセンタイル											
	1200203x01/	1200203x02/	1200203x03	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
子宮頸部の悪性腫瘍				25.1	8.5	7.1	39.6	11.4	14.3	19.8	24.6	29.7	37.4	39.1
在院日数				21.4	7.7	5.9	37.0	9.6	12.4	16.3	20.5	25.0	33.9	34.7
術後在院日数				3.7	2.3	1.0	11.7	1.2	1.7	2.3	3.3	4.5	7.2	8.2
術前在院日数														



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、件数上位25%(6件以上)の施設を解析対象とした。

ICD-10: C53

□ : 術前在院日数

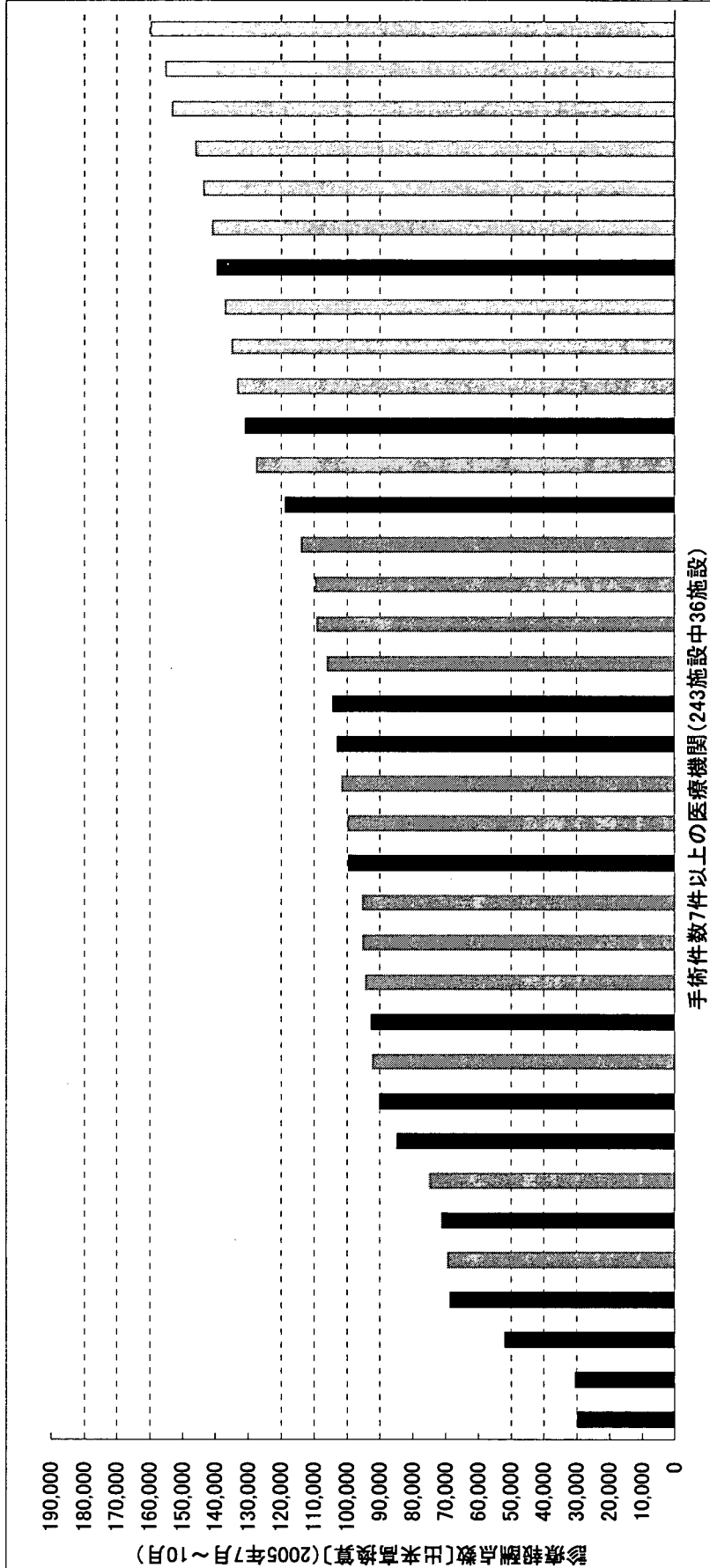
■ : 術後在院日数

【コメント】

外れ値として両側5%を除外し、件数で上位25%にあたる手術件数6件以上の43施設を解析対象とした。術前在院日数の中央値は3.3日で最小値1.0日、最大値11.7日と施設間で少し差がみられた。また、術後在院日数は最小値5.9日、最大値37.0日であった。全体的に卵巣癌の手術症例よりも、平均値で約4.3日短かった。

# 子宮頸部の悪性腫瘍手術症例における一入院当たり診療報酬点数〔出来高換算〕平均値(N = 425)

分類名	パーセンタイル										
	最大値	5	10	25	50	75	90	95			
子宮頸部の悪性腫瘍	105,964	32,838	29,888	159,784	46,603	69,125	91,891	103,770	134,102	145,055	153,858
診療報酬点数〔出来高換算〕	118,067	26,452	69,524	159,784	75,914	92,644	96,605	111,946	140,039	152,650	155,273
特定機能病院(22施設)〔出来高換算総点数〕	86,947	33,697	29,888	139,701	30,363	37,012	69,361	91,537	104,116	127,417	134,099
その他の参加病院(14施設)〔出来高換算の総点数〕											



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、件数上位25% (7件以上)の施設を解析対象とした。単位は診療報酬点数である。

ICD-10: C53

■: 特定機能病院

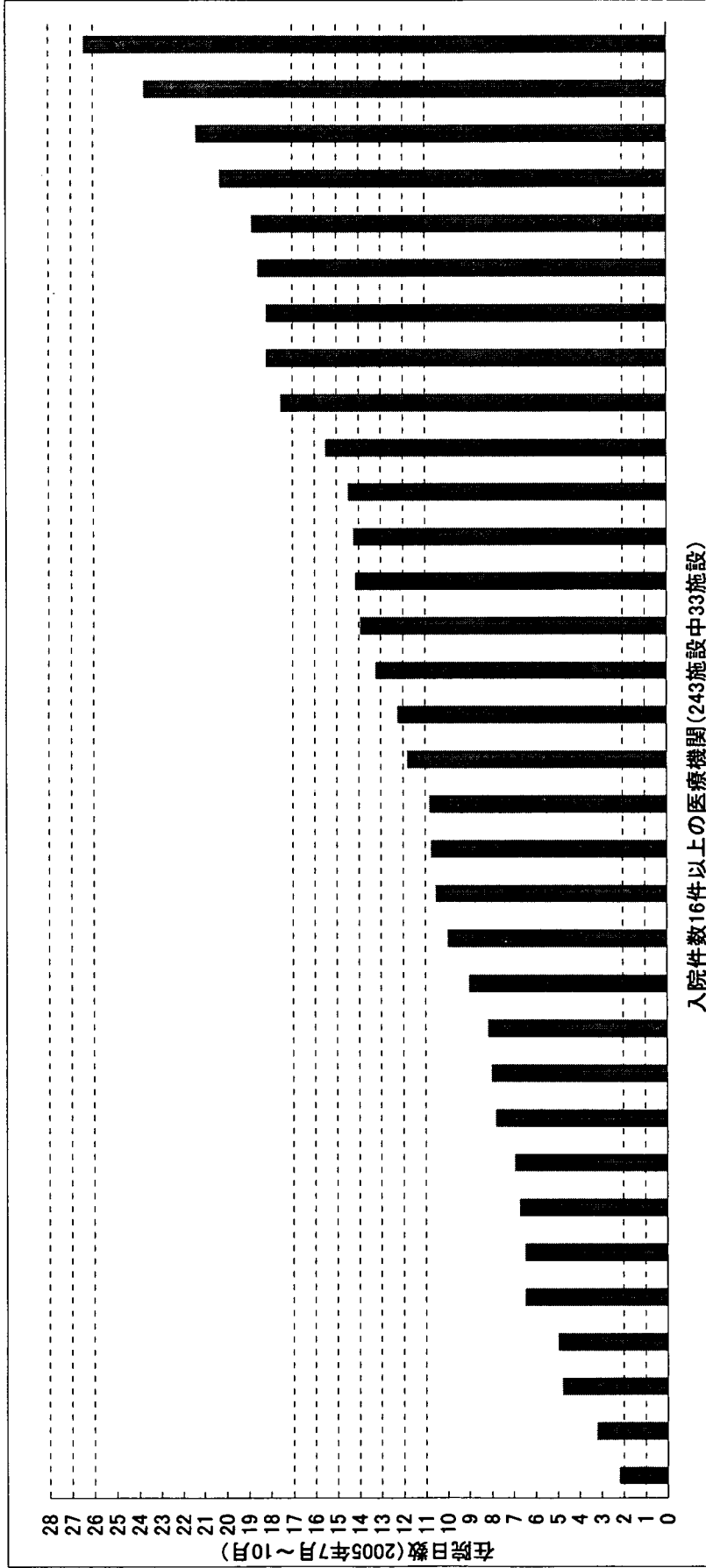
■: その他の参加病院

【コメント】

外れ値として両側5%を除外し、件数で上位25%にあたる手術件数7件以上の36施設を解析対象とした。全体的にみた1入院あたりの診療報酬点数〔出来高換算〕は約10万点であるが、特定機能病院の平均値はその他の参加病院よりもおよそ2.5万点高額であった。

子宮頸部の悪性腫瘍手術未症例における平均在院日数(N = 969)

解析対象DPC番号の範囲		パーセンタイル										
分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
子宮頸部の悪性腫瘍	在院日数	12.4	6.1	2.2	26.4	4.2	5.3	7.8	11.8	17.5	20.0	22.3



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、16件以上の施設を解析対象とした。

ICD-10: C53

■ : 在院日数

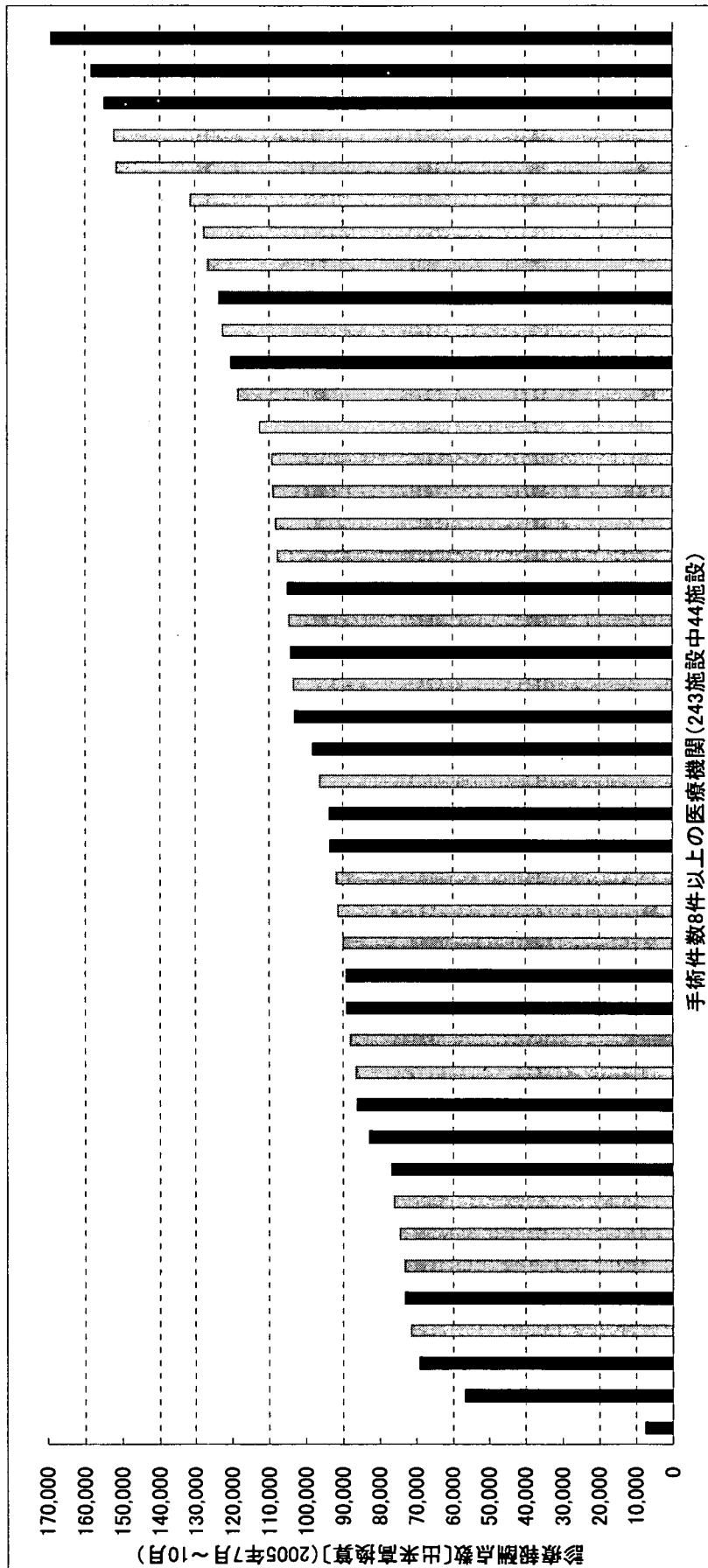
【コメント】

外れ値として両側5%を除外し、入院件数16件以上の33施設を解析対象とした。子宮頸部癌においては、在院日数は平均値12.4日、最小値2.2日、最大値26.4日で分布していた。卵巣癌と比較すると、平均値で5.9日長く、手術症例とは反対の傾向を示していた。



### 子宮体部の悪性腫瘍手術症例における一入院当たり診療報酬〔出来高〕平均値(N = 552)

分類名	解析対象DPC番号の範囲		パーセンタイル										
	1200203x01/	1200203x02/	1200203x03	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90
子宮体部の悪性腫瘍	診療報酬点数〔出来高換算〕		101,966	29,758	7,611	169,222	69,692	73,282	86,608	100,739	119,166	145,846	154,515
	特定機能病院(24施設)〔出来高換算総点数〕		105,414	22,745	71,769	152,524	73,602	75,181	89,653	106,375	119,766	130,507	148,899
	その他の参加病院(20施設)〔出来高制度の総点数〕		97,829	36,672	7,611	169,222	54,182	68,056	81,522	93,750	108,925	155,216	158,903



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、件数上位25% (8件以上)の施設を解析対象とした。単位は診療報酬点数である。

ICD-10: C54

■ : 特定機能病院

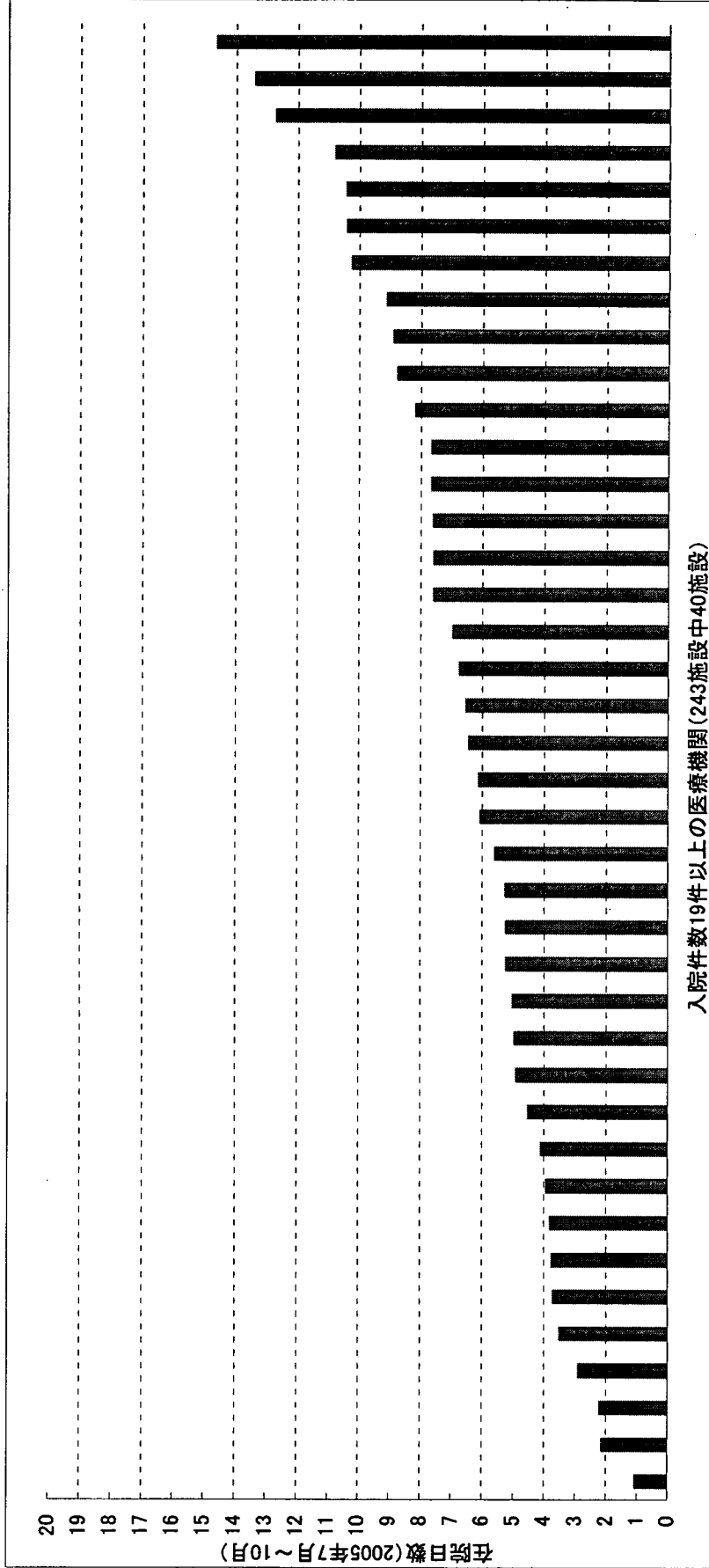
■ : その他の参加病院

【コメント】

外れ値として両側5%を除外し、件数で上位25%にあたる手術件数8件以上の44施設を解析対象とした。全体的にみた1入院あたりの診療報酬点数〔出来高換算〕は約10万点であるが、特定機能病院の平均値はその他の参加病院よりもおよそ0.8万点高額であった。

子宮体部の悪性腫瘍手術未症例における平均在院日数(N = 1,403)

解析対象DPC番号の範囲		パーセンタイル										
分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
子宮体部の悪性腫瘍	在院日数	6.7	3.1	1.1	14.7	2.2	3.5	4.4	6.3	8.4	10.5	12.8



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、件数上位25%(19件以上)の施設を解析対象とした。

ICD-10: C54

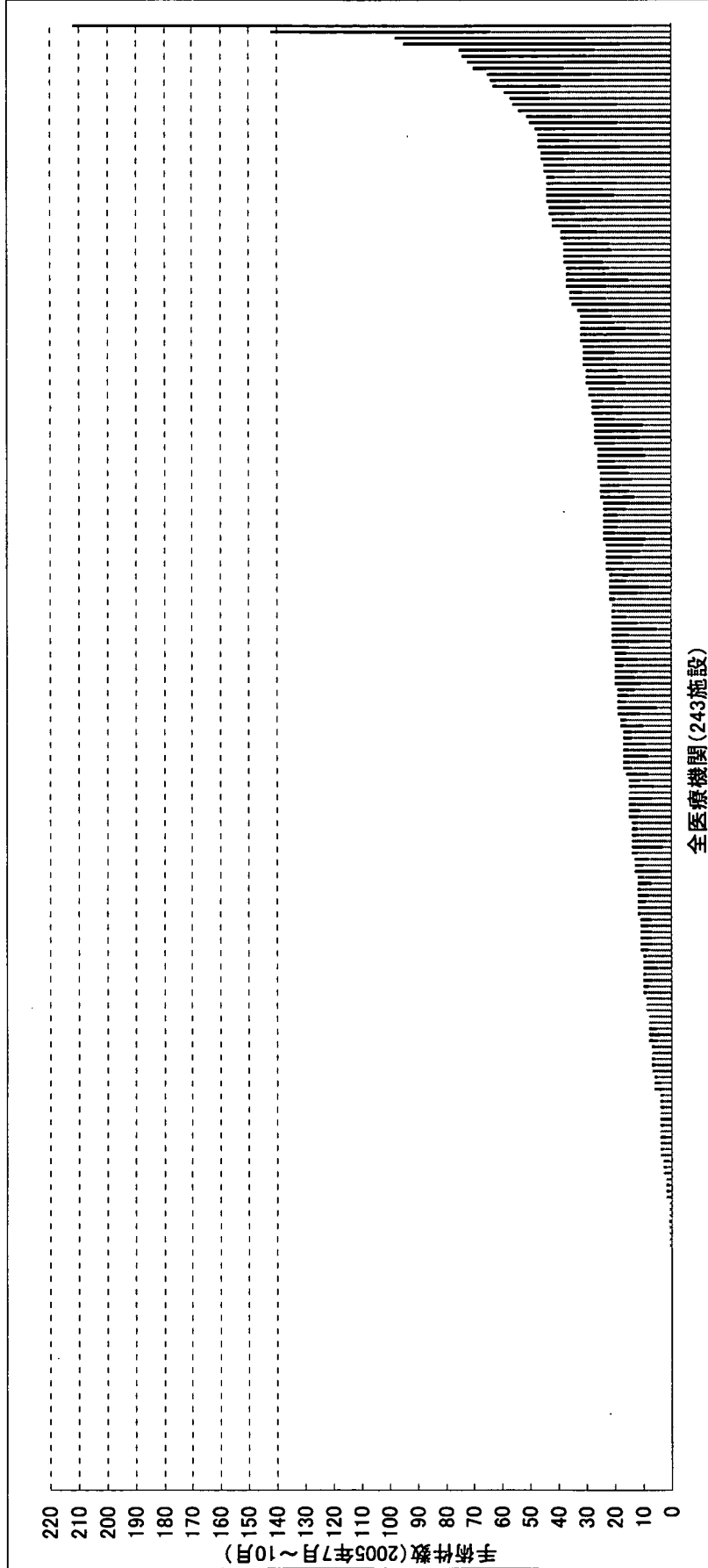
■: 在院日数

【コメント】

外れ値として両側5%を除外し、件数で上位25%にあたる入院件数19件以上の40施設を解析対象とした。子宮体部癌においては、在院日数は平均値6.7日、最小値1.1日、最大値14.7日で分布していた。

### 子宮の良性腫瘍の術式別手術施行件数

分類名	解析対象DPC番号の範囲		パーセンタイル											
	1200603*01/	1200603*02/	手術件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
子宮の良性腫瘍			2,118	8.7	16.9	0	198	0	0	0	4	11	18	30
			2,982	12.3	10.9	0	64	0	0	3	11	19	27	34



【図の説明】

■ : 子宮全摘術等[DPC手術コード:01, 02およびKコード:K876, K877, K877-2]

■ : 子宮筋腫核出術等[DPC手術コード:01, 02, 03およびKコード:K8721, K8722, K872-2, K873]

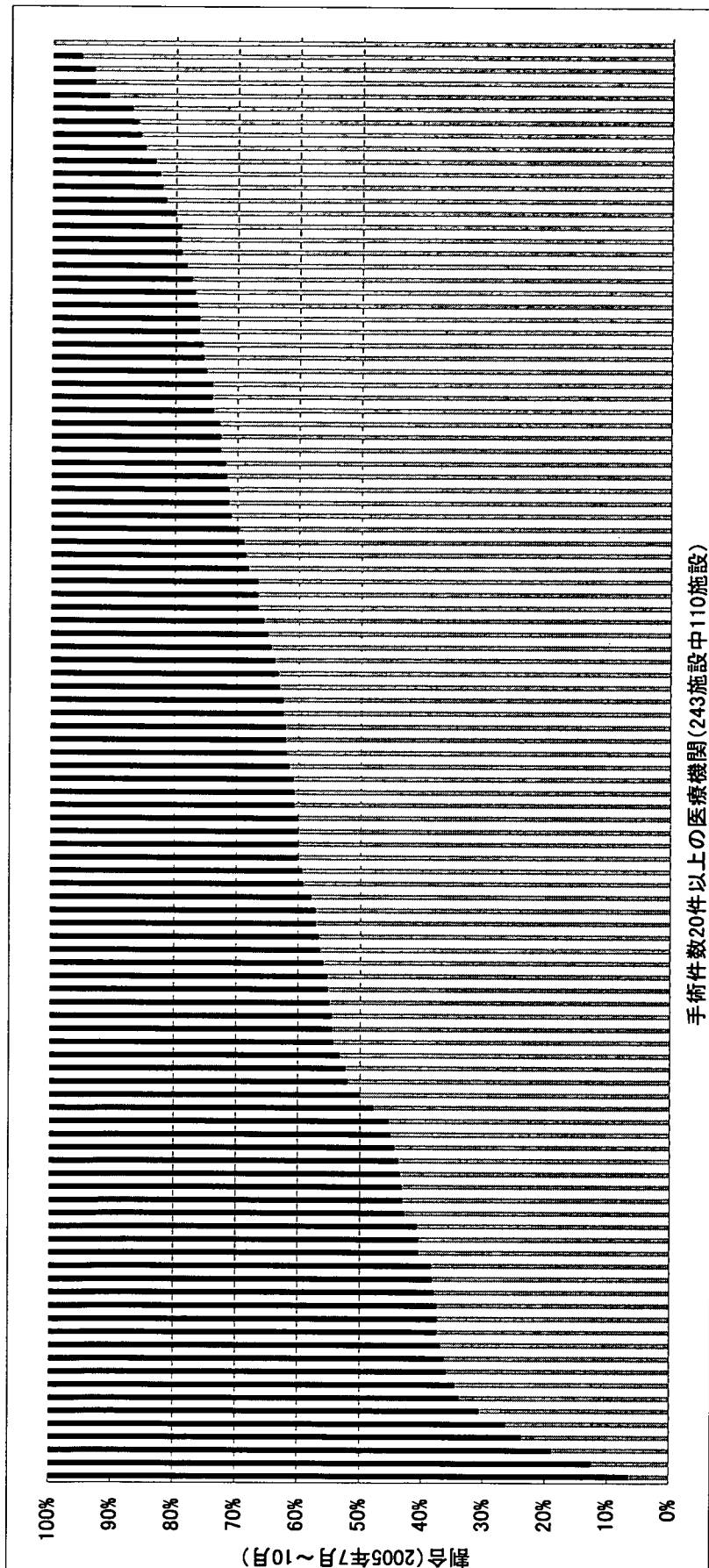
【コメント】

全体の57%の139施設において、子宮良性腫瘍に対する手術症例が1例以上あった。全体的には4か月間で1施設あたりおおよそ20例の手術症例があり、筋腫核出術よりも子宮全摘術施行症例がやや多くなっていった。



### 子宮の良性腫瘍の術式別手術施行割合 (N = 4,197)

分類名	解析対象DPC番号の範囲		パーセンタイル											
	1200603x01/	1200603x02/	1200603x03	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
子宮の良性腫瘍				40%	18%	0%	93%	13%	18%	26%	38%	54%	63%	68%
子宮筋腫核出術等施行件数				60%	18%	7%	100%	32%	37%	46%	62%	74%	82%	87%
子宮全摘出術等施行件数														



【図の説明】

件数20件以上の施設を解析対象とした。

■ : 子宮全摘術等 [DPC手術コード: 01, 02およびKコード: K876, K877, K877-2]

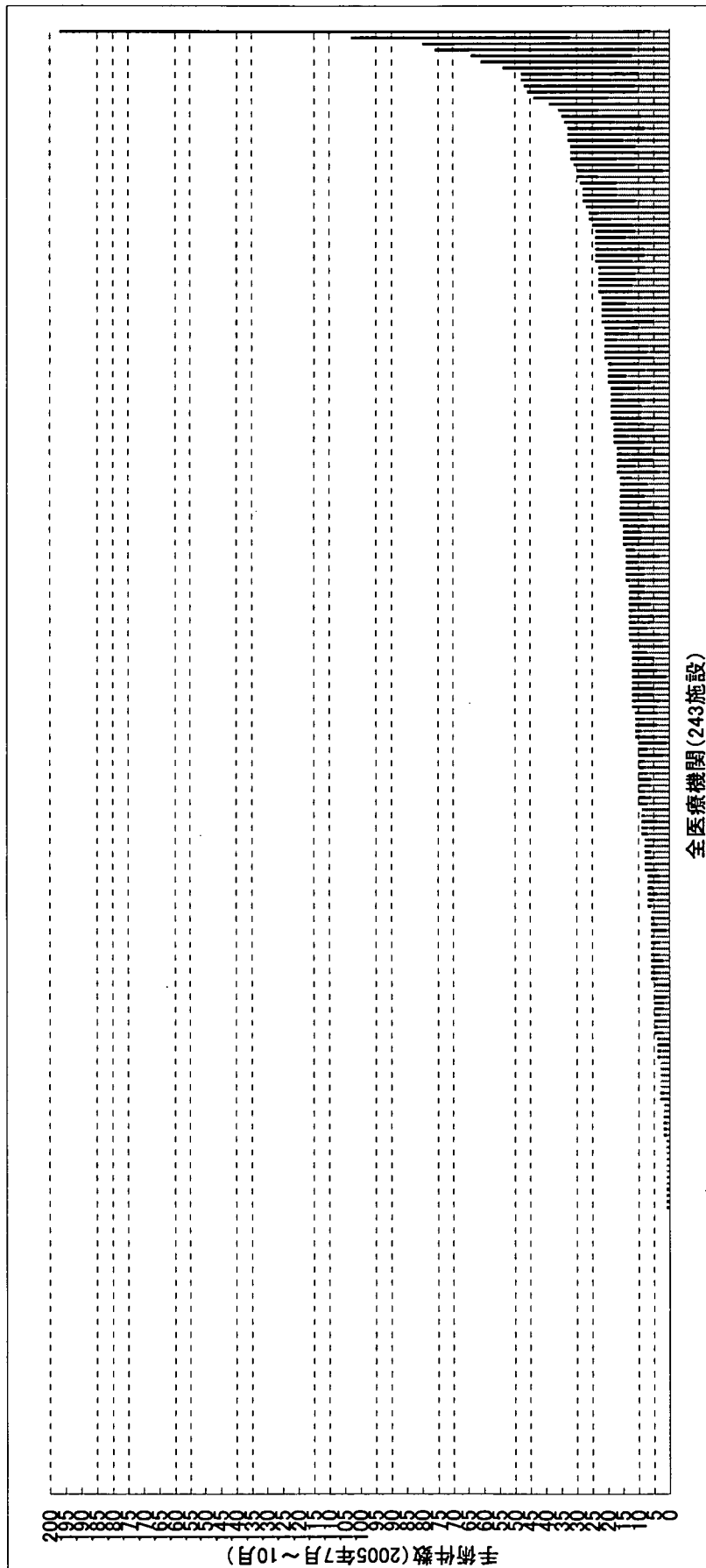
■ : 子宮筋腫核出術等 [DPC手術コード: 01, 02, 03およびKコード: K8721, K8722, K872-2, K873 ]

【コメント】

手術件数20件以上の110施設を解析対象とした。全体の平均では子宮全摘術が60%を占めていたが、その割合は施設間で大きくばらばらついており、7%から100%までの幅があった。

### 45歳以下の子宮良性腫瘍症例の術式別手術施行件数

分類名	解析対象DPC番号の範囲	解析内容	パーセントایل												
			手術件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95	
子宮の良性腫瘍	1200603x01/ 1200603x02/ 1200603x03	子宮筋腫核出術等施行件数	1,958	8.1	16.1	0	191	0	0	0	0	4	10	17	27
		子宮全摘出術等施行件数	1,415	5.8	5.5	0	32	0	0	1	5	9	12	17	17



**【図の説明】**

45歳以下を対象とした。

■ : 子宮全摘術等 [DPC手術コード: 01, 02およびJKコード: K876, K877, K877-2]

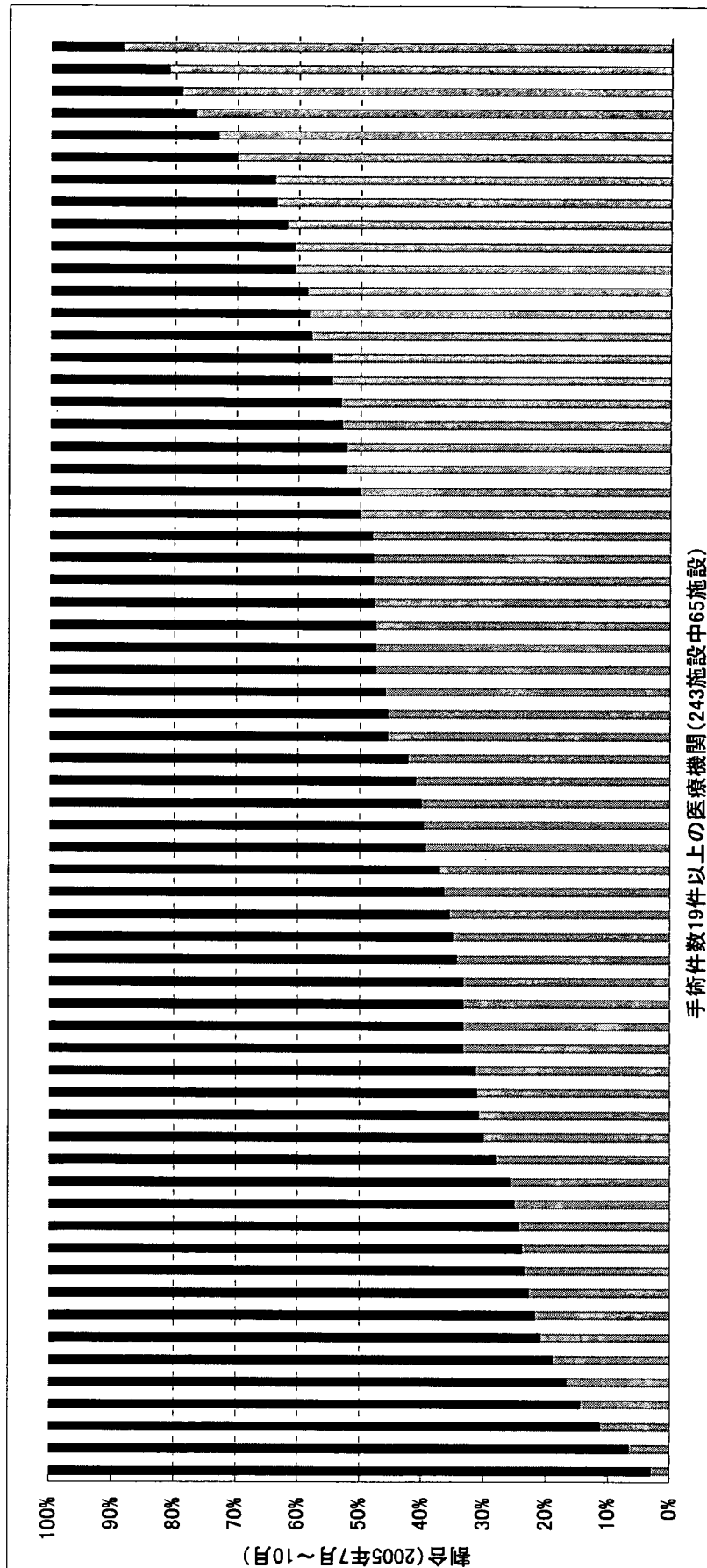
■ : 子宮筋腫核出術等 [DPC手術コード: 01, 02, 03およびJKコード: K8721, K8722, K872-2, K873]

**【コメント】**

全体の80%の施設において1例以上の45歳以下の子宮良性腫瘍手術症例があった。4か月間で1施設あたり約14例の手術症例があった。全年齢における解析とは異なり、45歳以下では筋腫核出術施行症例が全体の58%を占めていた。

### 45歳以下の子宮良性腫瘍症例の術式別手術施行割合(N = 2,204)

解析対象DPC番号の範囲		パーセンタイル									
1200603x01/ 1200603x02/ 1200603x03		解析内容									
分類名	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
子宮筋腫核出術等施行件数	57%	18%	12%	97%	24%	36%	47%	58%	69%	79%	85%
子宮全摘出術等施行件数	43%	18%	3%	88%	15%	21%	31%	42%	53%	64%	76%



【図の説明】

45歳以下を対象とし、件数上位25%(19件以上)の施設を解析対象とした。

■ : 子宮全摘術等 [DPC手術コード: 01, 02およびKコード: K876, K877, K877-2]

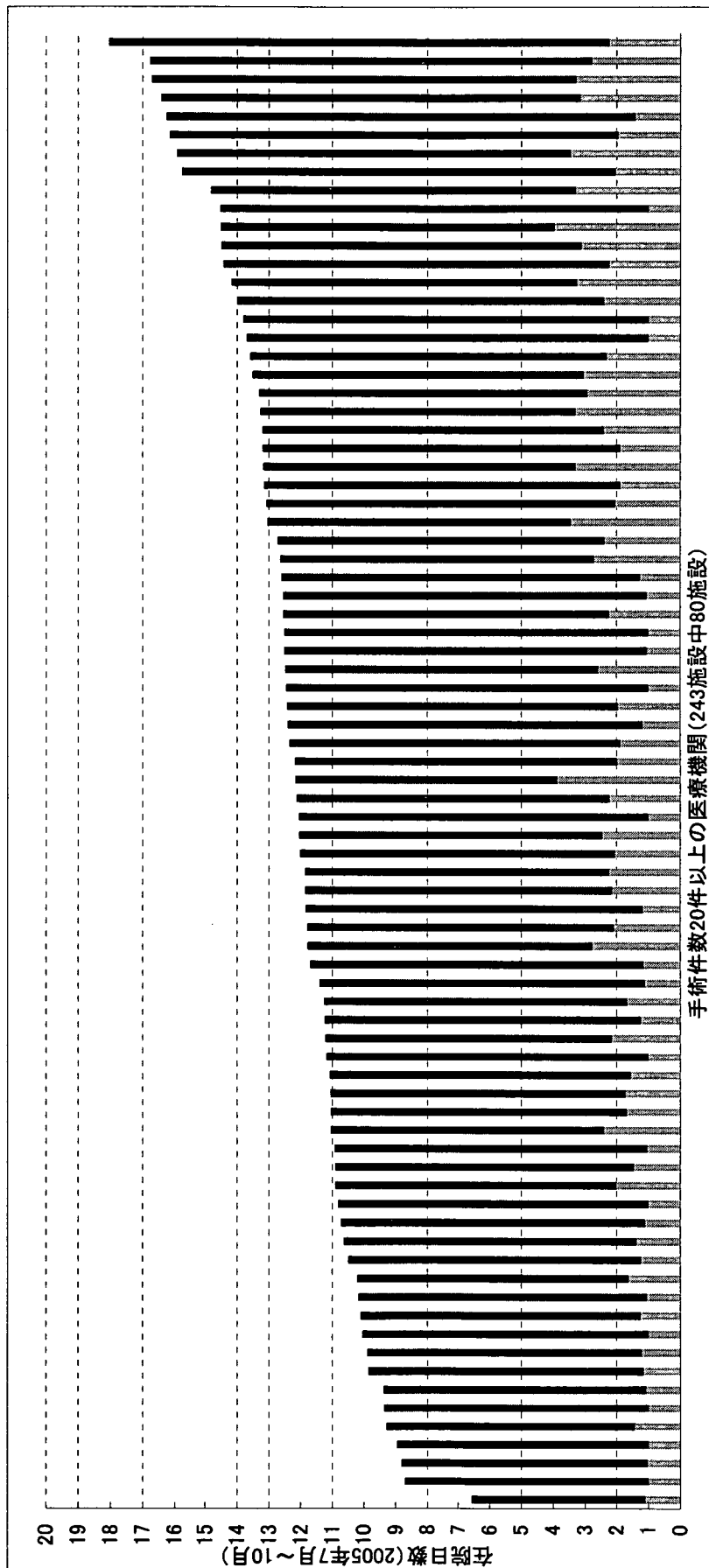
■ : 子宮筋腫核出術等 [DPC手術コード: 01, 02, 03およびKコード: K8721, K8722, K872-2, K873]

【コメント】

手術件数19件以上(上位25%に該当)の65施設を解析対象とした。全年齢における解析結果とは対照的に、全体の平均としては子宮筋腫核出術の割合がわずかに高かった。しかしその割合は施設間で大きくばらついており、約12%の施設から90%を超える施設まで分布していた。

### 子宮の良性腫瘍手術症例における平均在院日数(N = 2,665)

分類名	解析対象DPC番号の範囲		パーセンタイル										
	1200603x01	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
子宮の良性腫瘍		在院日数	12.3	2.1	6.6	18.1	9.3	9.9	11.0	12.2	13.3	14.9	16.3
		術後在院日数	10.4	1.8	5.5	15.8	7.9	8.6	9.3	10.1	11.3	12.9	13.7
		術前在院日数	1.9	0.8	1.0	4.0	1.0	1.0	1.1	1.9	2.4	3.3	3.3



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、件数20件以上の施設を解析対象とした。

解析対象データには、DPC手術コード:01における子宮全摘出術[Kコード:K876, K877]および子宮筋腫核出術[Kコード:K8721, K8722]が含まれる。

■ : 術前在院日数  
 ■ : 術後在院日数

【コメント】

外れ値両側5%を除外し、手術件数20件以上の80施設を解析対象とした。術前在院日数は1~4日に分布していて施設間のバラツキは小さく、術後在院日数も約1~2週間までの分布であった。